

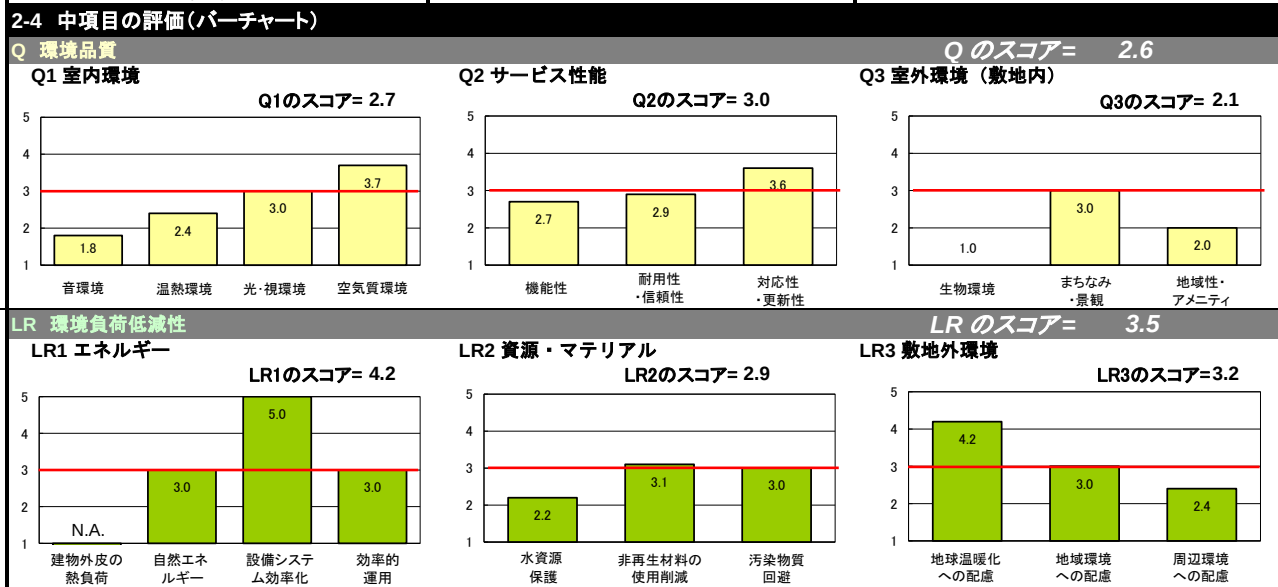
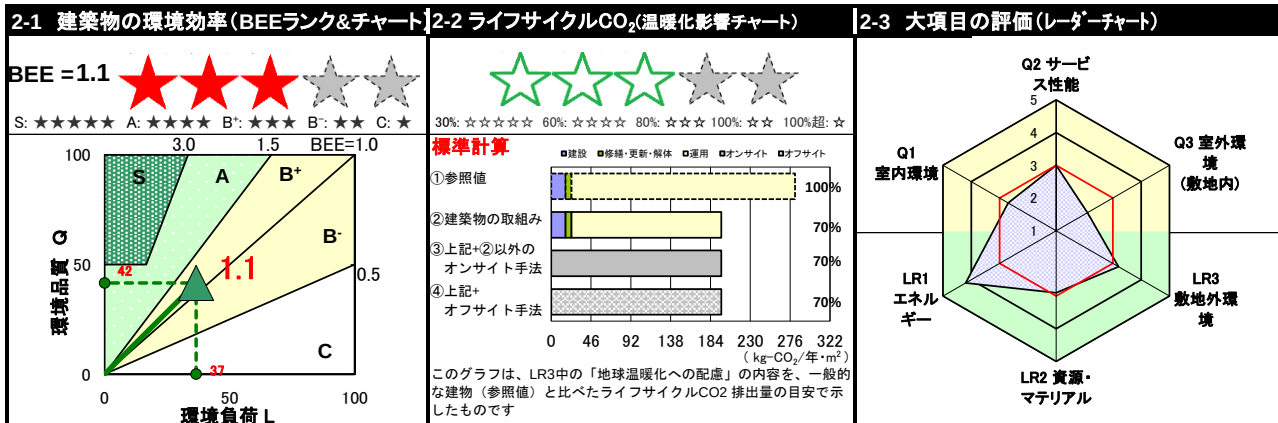
CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル2016 使用評価ソフト: CASBEE Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)茶屋新田計画	階数	地上1
建設地	名古屋市港区川園1丁目65番の一部、72番	構造	S造
用途地域	2種住居地域、準防火地域	平均居住人員	400 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,000 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年11月 予定	評価の実施日	2025年3月2日
敷地面積	8,433 m ²	作成者	
建築面積	4,853 m ²	確認日	2025年3月2日
延床面積	5,059 m ²	確認者	

外観バース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



3 設計上の配慮事項		
総合 物販店舗として、コストを考慮しつつも店舗空間の快適性や利便性及び、省エネ効果を考慮した計画とした。		その他
Q1 室内環境 室内環境の快適性を考慮した照明設備計画とした。	Q2 サービス性能 天井高さをH=3.6m以上とし、室内の快適性と室内環境の向上につ、壁長さ比率を小さく抑え、空間の自由度を高めた計画とした。	Q3 室外環境 (敷地内) 沿道沿いに植栽を行い、周辺環境への圧迫感を配慮した計画とした。
LR1 エネルギー 効率的なLED器具の採用等により省エネ性能の高い計画とした。	LR2 資源・マテリアル 汚染物質含有材料を使用しない計画とした。	LR3 敷地外環境 管理用車両用スペースを設置し、一般客車両の通行支障を回避できる計画とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)茶屋新田計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.1
LR1	エネルギー	4.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.066666667	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.9
LR2.1	水資源保護	2.2	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.025	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.1



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.9



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。